

# よこそうをよりよく知るためのフリーマガジン プロムナード

2024年

11月号

Vol.379

毎月1日発行



## 特集

### 『横縦に至るまでの私』

脳神経外科医 中川 将徳

## よこそうニュース

### 『新入職医師のご紹介』他

連載

Dr.長田の認知症学事始

Dr.田中の糖尿病人物往来

谷川博士のお薬よもやま話

薬剤師さんにキイテミタ  
よこそう医療福祉情報局  
よこそうライブラリー

TAKE FREE

# 横縦に至るまでの私

(脳神経外科医 中川 将徳)

「人間、40歳を超えたら自分の顔に責任を持つ」と言われます。既にその歳を15年以上過ぎ医師として30年以上働いてきた現在、今回の原稿依頼をきっかけにふと自分はこれまでどのような人生を歩んできたのだろうかと顧みたくなりました。

## 父の言葉

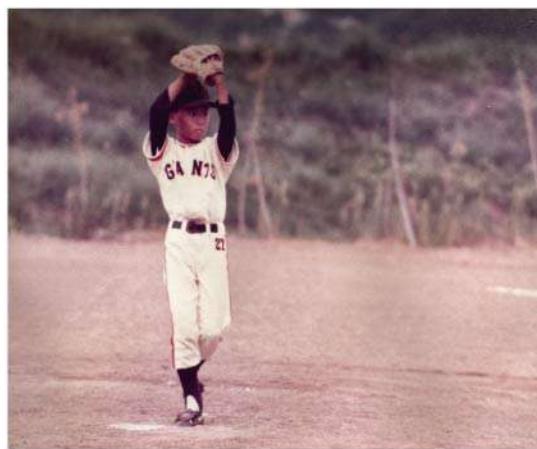
私は国立療養所の事務職だった父と、同じ病院で電話交換士をしていた母との間に生まれました。父の実家は滋賀県のびわ町で、祖父が若い頃、朝鮮鉄道に就職したあと現地で独立し、大東亜戦争末期に兵役で招集され朝鮮の木浦に派遣されている時に敗戦を迎えるました。祖父は復員後すぐに妻子7人を連れて全ての財産を残したまま、ほうほうの体で滋賀の実家に帰ったそうです。間もなく祖母の兄を頼って岐阜県各務原市に転居しましたが経済的には苦しかったようです。

父は6人兄弟の4番目の長男で、幼少の頃から3人の姉の教科書を読んで育ったせいか成績優秀で高校時代には新聞記者を目指していましたが、家の経済的理由で大学進学を許されず、高卒で名古屋の会社に就職後、回り道をしたうえで国立療養所の事務職となりました。病院で40年働いた父は折に触れ、「医師という仕事は、人の体にメスを入れることを許され、また人生の最終章に立ち会うことのできる貴い職業だ。」と語っていました。



少年時代、岐阜県各務原市内の神社にて家族と

## 少年～学生時代



リトルジャイアンツ（軟式少年野球チーム）時代

私は父の転勤で5回引っ越ししたものの主に岐阜県各務原市で育ちました。小中学生時代は野球部に所属し少年野球ではピッチャーもしていましたが、中学2年の夏に右肘に水が溜まり野球肘と診断され一時ボールを投げられなくなりました。高校は岐阜市の県立高校に進学し、足を使うサッカー部に入りました。入学した当初、勉学では周りの同級生がとても優秀に見えてショックを受け、成績も中の下でした。平日の部活動を終えて7時頃に帰宅し、夕食、入浴を済ませると疲れて眠ってしまい、夜中の3時頃に起きて宿題に取り組んだことを覚えています。それでも2年生で男子クラスに入った頃から自分のペースをつかみ、卒業後には地元の国立大学医学部に入学できました。

大学でもサッカー部に所属し、私がキャプテンを務めた年の西日本医学生体育大会で3回勝ち上がってベスト8まで進めたのがいい思い出です。サッカー部ではチームワークの大切さを学びました。また大学4年から5年の進級試験に落ちて1年留年したため、家庭教師の他に建設現場やゴム工場などでアルバイトをしてお金を貯め、1ヶ月以上ヨーロッパを単身で旅行しました。東西ドイツ統一の瞬間をベルリンで迎えたり、西ドイツ製のVWやBMWと共にトラバンドという東ドイツ製のオノボロな車が走っているのを見て驚いたり、鉄道移動中に行き先を間違えて宿が取れず、駅で野宿していたら夜中に駅員にたたき起こされ、日本のパスポートを見せたら大目に見てもらえたこともあります。



西日本医学生体育大会にて(医学部5年生当時)

## 医師として



静岡市立静岡病院の先生方とともに

医師になり大学病院での研修医1年目は、採血、点滴、尿検査判定、患者搬送などあらゆる下積み経験をしました。大学病院では1年目の研修医は病棟内で最下層の身分です。平日は22時頃に帰宅する生活で教授回診の前にはプレゼンの準備が終わらず病院に泊まり込むこともありました。

初めて赴任した高山赤十字病院は地域の中核病院で、1次から3次まであらゆる救急患者が来ました。大学病院から150km以上離れた地域医療の最後の砦だったため、どれだけ救急患者が来ても基本的に断るという発想はありませんでした。冬期に入院患者が増えベッドが足らなくなると、病棟の

処置室にストレッチャーを運び入れその上に患者をのせて入院治療することもありました。当直は内科系と外科系の2系統制だったので、「当直医マニュアル」や「今日の治療指針」などを見ながらできるだけ広い範囲の疾患に対処しようと努力しました。

大学院卒業後に赴任した静岡市立静岡病院では、指導医の先生に、「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）を大切にせよ。」とか、病棟や救急外来から夜間呼び出された時、「どうせ行かなきゃならないのだから、嫌そうな顔をせずに行きなさい。」と教えられました。また「手術がうまくいったのは皆の協力のおかげ、そして手術から2週間以内に起きるあらゆる出来事に対し術者は責任を持つ。」と背中をもって教えられました。

# 特集

大学医局の人事に従い10回ほど転勤した後に、家庭の都合で17年前に大学人事から外れて関東の病院に就職しました。前任地である東京労災病院での約10年間には顕微鏡手術や血管内手術のスペシャリストの手術助手となって学び、自分でも術者を経験させてもらいました。



当院脳神経外科病棟にて



アンギオ室での血管内手術の様子

その後縁あって6年前から当院で働かせていただいている。当院では脳卒中や頭部外傷の救急医療、頭痛や意識障害を来す患者さんの管理などを担当し、コロナパンデミックも経験させていただきました。

## 振り返って

1世代30年と言いますが医師となって30年経過した現在、働き方改革の時流の中で医師の医業に対する考え方や価値観も変化しています。また都会と地方とでは医療環境が異なるせいか、患者さんの求めるレベルや医療提供側の自己防衛意識も異なるように感じますが、どちらが良い悪いというわけではありません。

私は地方の病院で医療を学んだ上で都会に出てきたこともあり、今どきの都会の病院にはやや珍しいタイプかもしれません、医師として30年の経験を積んだ今、現在の医療レベルと自分の力量を知った上で患者さんの病状とニーズをうまく把握し、自分と当院の総合力を十分に生かしてより良い医療サービスを提供していきたいと思っています。今後ともどうぞ宜しくお願ひ致します。



院内のみならず院外からも依頼が入る

## 中川 将徳 / Masanori Nakagawa 脳神経外科部長代理

岐阜大学(1993年卒)

川崎幸病院

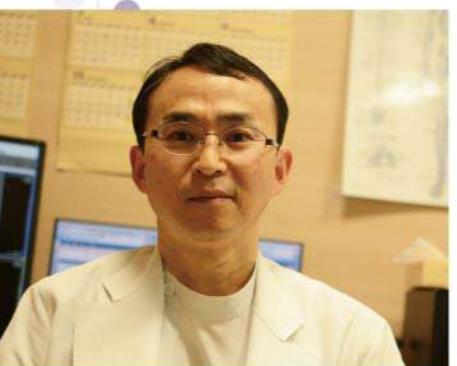
東京労災病院

日本脳神経外科学会専門医・指導医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医

<https://yokoso.or.jp/department/neurology/neurology1>



4 Masanori Nakagawa

## Dr. 田中の 糖尿病人物往来

### 第7回

しこんしょうさい

「土魂商才」で大阪を復活させた五代友厚



江戸時代の大坂は経済の中心地

でしたが、経済の中心は大阪でした。各藩の年貢米の大半が大阪に送られ堂島米会所、(現在の大阪市北区堂島)で取引され、現金化されていました。大阪は天下の台所と呼ばれ、活況を呈していました。ところが、明治維新になって江戸は東京に改名され、米会所も明治2年に廃止となり、各藩の蔵屋敷も政府に没収されました。経済の中心は東京に移り、大阪の活気は急速に低下しました。この大阪の窮地を救ったのが旧薩摩藩士の五代友厚です。



鹿児島市の尚古集成館所蔵

薩摩藩きっとの開国主義者

五代は1836年に鹿児島城下で生まれました。

22歳で幕府が設立した長崎の海軍伝習所に派遣され、オランダ士官から西洋の知識を学びます。尊王攘夷は非現実的だと痛感した彼は、

24歳で上海に密航し、ドイツ汽船を購入しています。生麦事件に端を発した薩英戦争では英國軍に捕らえらますが、釈放後は開国的重要性を説いて回ります。30歳になると島津久光を説得し、若い藩士14名を自らが率いて英國に留学させます。さらに欧州各地を回って武器弾薬や船舶、紡織機械を購入しています。五代がやり手だったなど私が思うのは、1867年4月から開催されたパリ万国博覧会への出展です。万博開催の情報を幕府に先駆けて入手した彼はフランス貴族の協力を得て、幕府とは別に「薩摩太守政府」として出展しました。薩摩の工芸品展示だけでなく、写真の薩摩琉球国勲章を製作してナポレオン3世に贈り、薩摩藩が幕府と対等の独立政府であると海外に印象付けました。同時に出展した幕府は大変立腹しましたが、この年の11月に大政奉還が行われ、この件はうやむやになりました。

明治維新後は実業家に転身

西郷隆盛、大久保利通の信頼が厚かった彼は維新後に政府の要職に就きます。しかし、日本の商工業を自らが率先して発展させるべく、職を辞して実業家に転身します。「土魂商才」とは武士の気概を持ちつつ、商業に励むという意味ですが、まさに彼は士魂を持つ実業家として活躍しました。とくに大阪の経済発展が重要と考え、大阪に居を移し、大阪株式取引所(後の大阪証券取引所)、大阪商法会議所(後の大阪商工会議所)を創立し、堂島米会所も復興させました。多くの新しい会社を次々と立ち上げ、経営手腕をふるいました。元気のなかた大阪に再び活気をもたらした彼はまさに大阪の救世主でした。

五代の寿命を縮めたのは過労と大量飲酒

糖尿病と診断さ

れていた彼は残念なことに49歳の若さで亡くなりました。糖尿病で苦しんだ北原白秋は短命とはいえ57歳まで生きています。彼も糖尿病だけであったなら、もう少し長く生きたかもしれません。彼は3~4時間程度しか睡眠をとらない、欧米人顔負けの大酒家であったと多くの友人が語っています。超多忙で仕事上のストレスは相当なものだったでしょうが、短時間睡眠では気持ちの休まる時がありません。唯一の安らぎをアルコールに求めていたのかかもしれません。長期間の大量飲酒は肝硬変や慢性脾臓炎などの内臓疾患を発症させます。心臓や脳の機能にも悪影響を及ぼします。彼の寿命を縮めたのはアルコール性の多臓器障害と慢性的な過労が原因と私は推測しています。ところで、アルコールは血糖を上げると思われがちですが、そうではありません。肝臓に作用して血糖を下げる方向に働きます。糖尿病患者さんにとっては、アルコールは低血糖の危険因子です。飲酒で血糖が上るのはアルコールにより食欲が亢進して余分に食べるからです。1日のアルコールの目安はビール500 mL、日本酒1合、ウイスキーダブル1杯、ワイン180 mL程度です。週に2日は休肝日とし、飲酒回数や飲酒量、飲酒する時間などについては主治医とよくご相談下さい。

東の渋沢、西の五代

五代と同時期に徳川慶喜の家臣から明治政府の要職に就き、その後実業家に転身したのが渋沢栄一です。当時は東の渋沢、西の五代と並び称されました。渋沢は91歳まで長生きしましたが、五代は49歳の短命でした。五代が長命でさらに大活躍していたなら、新1万円札の顔は五代になっていたのではないかと私は思っています。



五代友厚

1836~1885



大阪商工会議所前の銅像、大阪市内には五代の銅像がいくつもあります。

Illustration by Ken Nagata





よこそ  
りょくししゃくさん

キイテ  
ミタ  
第6回

薬剤師：吉嶺 亮哉  
出身：鹿児島県鹿児島市  
好きな食べ物：黒豚のしゃぶしゃぶと鶏飯  
(鹿児島の郷土料理です。)

—自己紹介をお願いします—

こんにちは、よこそう入職3年目の吉嶺です。  
鹿児島で育ち大学時代は宮崎県の延岡で過ごしました。横浜はまだ3年です。現在は外来薬局での業務と病棟業務を半分ずつくらいの割合で担当しています。就職先として当院を選んだ理由は専門知識の勉強がしやすい環境が整っていることです。仕事においては先輩や同僚にすぐに答えを聞くのではなく、まずは自分で調べてみて分からない点については相談するよう心掛けています。

—吉嶺さんはどのような薬剤師を目指していますか?—

私が目指す薬剤師像を一言で表すと「全ての患者さんに寄り添える薬剤師」です。

薬剤師というと薬の事に詳しいという印象がありますが、専門職として薬の知識はあって当たり前です。しかし知識の対象となるのは患者さんですので健康状態や考え方など患者さんの事を理解す



<https://yokoso.or.jp/bumon/pharmaceutical>



—プロムナードの読者の皆様に一言お願いします—

よこそうは専門知識を豊富に持った職員がとても多い病院です。もしご自身の健康のことなど、分からないうがあればお気軽に声を掛けていただきたいと思います。

次回第7回は…

Q 飲みきらず、残った薬は、どのくらい保存が大丈夫か?

よこそう

医療福祉情報局

No.20

けあまね

- 福祉用具
- 訪問看護
- 訪問介護
- デイサービス
- ショートステイ



### ケアマネジャー（介護支援専門員）とは

要介護者や要支援者の人の相談や心身の状況に応じるとともに、サービス（訪問介護、デイサービスなど）を受けられるようにケアプランの作成や市町村・サービス事業者・施設等との連絡調整を行う者とされています。

主な仕事内容…ケアプランの作成、サービス事業者との調整、利用者・家族からの相談受付

要介護認定に関する業務、入退院や施設入所の支援、介護サービス費用の管理、モニタリング

### ケアプランの作成

介護保険サービスの利用には、ケアプランの作成が必要です。

#### 要介護1～5の方



### 要支援1・2の方

地域包括支援センターに介護予防ケアプランの作成を依頼し、お住いの市に「介護予防サービス計画作成届出書」または、「介護予防ケアマネジメント依頼届出書」を提出します。

地域包括支援センター

話し合いをもとに原案を調整し、サービスの種類や利用回数などを盛り込んだ介護予防ケアプランを作ります。

サービス事業者と契約

介護予防サービスを利用

Text & Illustration by  
Masami Honna  
(Medical Social Worker)

横浜総合病院の相談窓口は地域医療総合支援センターです。

お気軽にお声かけください。☎ 045-903-7152 (患者相談室)

参考：厚生労働省 HP (福祉・介護) 介護職員・介護支援専門員

# よこそうライブラリー

よこそう職員がお勧めする医療関連エンターテインメントをご紹介いたします



となりの  
ナースエイド  
知念実希人

角川文庫



友人に勧められてドラマを知り、その後に原作の本を読みました。ナースエイドの日常のドタバタ劇だけかと思ってたら、ミステリーあり涙ありで面白かったです。また登場するキャラクターがそれぞれの個性をはっきり出していて、病院内での医師と看護師、そしてナースエイドの間に流れる微妙な上下関係を感じさせる描写にはリアリティがありました。

医療ミステリーのジャンル本としてはお薦めできる作品です。



賢者の学び舎  
防衛医科大学校物語  
山本亜季

小学館ビッグコミックス



「誰にも頼らずに医師になる」18歳の真木賢人が選んだのは防衛医科大学校。学費無料。給与支給。全寮制の環境を利用して、自衛隊のお医者さんを養成する学校で医師を志す！

もちろん、デフォルメはあります。一般人が知り得ない防衛医大の文化が垣間見えます。取材に基づいた漫画のようで、とても勉強になりました。防衛医大について知りたい方は必携のマンガです。



わたしを  
みつけて  
中脇初枝

ポプラ社



親に捨てられて施設で育った主人公の弥生は自分を捨てられた子という認識を外せないまま看護師として生きているが、素敵なお師長や患者さんに出会い、本当の自分を見つけ出していくというストーリーです。

捨て子であった主人公が「いい子」と隣り合わせで持つ心情に押しつぶされそうになりながらも人との出会いで少しずつ変わっていくというシンプルなあらすじですが、読んでみるととてもさわやかな気持ちになりました。お薦めです。



Dr.コトー  
診療所  
山田貴敏

小学館



満足な医療設備も整わぬ絶海の孤島、古志木島に現れた外科医・五島健助。理由もなく白眼視される彼だがその献身的な姿に、島民達は次第に心を開いていく。

素朴で純粋な人間同士の交流がよく描かれています。医療は体だけじゃなく心をも癒すもの、そんな大切な事を再確認させてくれる作品だと思います。ドラマ版では主役を吉岡秀隆さんが演じました。こちらもお薦めです。

## よこそラニュース

当院をよく知っていただくための情報をお伝えします

### 新入職医師のご紹介



【眼科】



【内科】



【内科】

河西 雅之/Masayuki Kawanishi

眼科部長

聖マリアンナ医科大学(1997年卒)

ひとこと:

一人でも多くの患者さんに笑顔になんてもらいたい！一緒にになって治療を行いましょう！

西成田 純/Jun Nishinarita

内科医(代謝・内分泌内科)

聖マリアンナ医科大学(2021年卒)

ひとこと:

丁寧な診療を心がけます。  
宜しくお願ひします。

井崎 裕都/Yuto Izaki

内科医(腎臓・高血圧内科)

聖マリアンナ医科大学(2021年卒)

ひとこと:

横浜総合病院の一員として活躍できるように努めて参ります。よろしくお願ひいたします。

### 認知症勉強会が行われました

9/24にアートフォーラムあざみ野にて第27回青葉区・緑区認知症勉強会を行いました。講師には地域栄養ケア PEACH厚木の江頭文江先生をお招きし「いつまでもおいしく食べる~個々にあわせた食支援~」について講演していただきました。



### 編集後記

秋分を過ぎたら厳しい暑さから一変、秋めいて過ごしやすくなりました。今月号の特集記事は脳外科の中川先生に執筆していただきました。先生のお人柄が非常に多く出ている素晴らしい自叙伝だったと思います。来月号もお楽しみに！ (TOMO KAWAI)

先月も半ば頃まで暑さが続いておりましたが、当院では10月いっぱいまでがクールビズなので大変助かりました。今月号も無事脱稿いたしましたことをご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。(TAKEHITO OGOMA)

医療法人社団緑成会 横浜総合病院附属 あざみ野健診クリニック



年に一度の健康チェックを

〒225-0011  
横浜市青葉区あざみ野2-2-9  
あざみ野第3ビル4F

☎ 045-522-6300  
FAX:045-903-0777



私たちは定期的な健診をお受けいただくことで、皆様の健康管理、疾患予防のお役に立ちたいと願っております。ご受診を心よりお待ちいたしております。詳しくはHPをご覧ください。  
<https://azamino-clinic.com>

- ・インターネット予約
- ・あざみ野駅より徒歩1分
- ・総合病院との連携

医療法人社団緑成会  
介護老人保健施設

横浜シルバープラザ



家庭に近い居住環境で、入居者の個性やニーズに沿い、他入居者との人間関係を築きながら日常生活を営めるユニットケアを導入した介護老人保健施設です。在宅復帰や在宅療養支援等の指標が特に高い施設のみが認定される「超強化型老健施設」に区内で唯一選ばれ、全国はもとより海外から多くの福祉関係者が視察に訪れています。

ご入居のご相談 〒225-0004  
お問い合わせは 横浜市青葉区鉄町  
こちらまで 2075-5

☎ 045-972-7001  
FAX:045-972-7741



<https://silverplaza.jp>



路線  
バス

東急田園都市線「あざみ野駅」から  
「あ27系統すすき野団地」行き  
「もみの木台」下車徒歩7分

小田急線「新百合ヶ丘駅」から  
「新23系統あざみ野駅」行き  
「もみの木台」下車徒歩7分

診察  
時間

午前 受付 8:00~11:30  
診察 9:00~12:00

午後 受付 1:30~4:00  
診察 2:00~5:00

循環  
バス

あざみ野駅、青葉台駅、鶴川駅、奈良北団地、こどもの国駅、麻生、すすき野方面より当院直通バスを運行しております。詳しくは右記HPをご覧ください。



プロムナード VOL.379

〒225-0025 横浜市青葉区鉄町2201-5  
TEL 045-902-0001

発行日: 2024年11月1日

制作・編集: 医療法人社団 緑成会 横浜総合病院  
総務課『プロムナード』編集室

発行人: 岩坪 新

